

もう少し大人になってから結婚してもよかったのでは「先の芸能デスク」

宇多田ヒカルは来年、米国デビューの子定だが、

「成功率は限りなくゼロに近い

10

## Wポスト紙が報じた成功率90% 「別れさせ屋」日本で大繁盛

近ごろ大盛況の「別れさせ屋」なる商売をご存じだろうか。男女の別れを工作するという一風変わったビジネスだが、米紙ワシントン・ポストは東京発で、成功率90%と報じた。どんな手口なのか。

「日本にカップルを別れさせるビジネスが生まれている」

8月31日付Wポストは、こんなタイトルで日本の「別れ

い。彼女が人気歌手として通用するのもあと2年といったところ。それなら、普通の女の子に戻った時、資産家の男性と結婚しておけば安心です。早すぎる結婚には、案外、彼

女なりの打算があったのかも  
しれません」(平林氏)

彼女のヒット曲ではないが、それこそ「オートマチック」に離婚——なんてならなければよいのだが。

「妻と別れたい夫が、妻に秘密任務を帯びた非常にハンサムな男性を用意する。まもなく、男性と関係を持った妻は夫との離婚を認める。すると男性は立ち去り、携帯電話の番号、彼が教えてくれた住所や会社の電話番号も嘘だったことがわかる」

「このような慎重な解決方法は日本では価値のあるものだ。日本では離婚は難しく、また恥ずかしいものでもある。ひどい目に遭わされた配偶者は、手のかかる訴訟になることに躊躇する。また、口論で怒りのあまり叫んだり、涙を流したりするのは、遠慮がちな国民性から外れている」

紙面に登場するのは、JR男性には色仕掛けで——(内内は中村社長)

「夫の浮気相手と関係してくれという頼みから、他の男に走った女の新しい関係を壊して欲しい、三角関係のライバルを誘惑してくれ、など千差万別。裏切った相手に復讐したいという人は多い」

料金はケースバイケースだが

かなり高額。着手金100万円、成功報酬50万円が相場とか。作戦部隊は作業員と呼ばれるスタッフだ。

「女性作業員は水商売やOLが多い。週末に稼げるし、疑似恋愛を楽しめるからという女性もいます。男性は大学生もいますね」(中村社長)

### 多いトラブル

「ゼネコンに勤務する中年男性が依頼者でした。都内にあるビジネスホテルの受付嬢と不倫していたところが、新しい彼女を作って棄てられてしまったのです。復讐して欲しいとの依頼でした」

「まず、彼女の勤務するホテルに連泊し、顔見知りになりました。出張で来た営業マンという触れ込みです。ある日、駅で偶然に会ったフリをして食事に誘うと応じてくれました。その後、何度か食事に連れ出し、親しくなったのです。ある日、彼女の休憩時間にホテルの部屋から電話をして「来ないか」と誘いました。彼女が部屋に来て、そこで関係

を結んだのです」

「隠しカメラで彼女の写真を撮り、ホテルの支配人に送ったのです。彼女は解雇になり、彼氏とも別れました」

「何とも信じがたいやり口だが、男性には女性作業員が色仕掛けで近づき、不倫相手の家庭を壊してくれ、という依頼には、奥さんのパート先に通って誘惑したり、と様々な工作を仕掛けています。」

現在、「別れさせ屋」は全国に十数社あるという。いかがわしい会社も少なくない。「トラブルが多く、ウチにも苦情が寄せられています」とは興信所、探偵社などの団体である「東京都調査業協会」の幹部だ。

「依頼したものの金だけ取られた、という話も聞きます。カップルをそんなに簡単に別れさせることなんてできるわけがない。ウチの協会には「別れさせ屋」は禁止していません。人権、プライバシーに関わることですからね」

成功率90%と報じられたこのビジネス。何とおかしな商売がはやる国になってしまったのか。

